眼 帯 の Q

三名刺繍

配　　役

女

女の右影
女の左影

容疑者

刑　事
女刑事

マヌカン
職　　人

妻
夫

写真家
雑誌編集者

トラホームの女詩人

自殺志願者

ワタシ

01

マダムを接客している職人。

マヌカン　靴、靴、靴、マダムの靴、御御足に合った靴、どんな靴にしましょうか。普段のご様子ですが、主に爪先で背筋を伸ばして、一筋の光のようにお立ちになりますか？　それとも主に、踵に体を優しく乗せ、後方に重心を傾かせるといった形で踵でお立ちになりますか？
あぁ、これは、げんこつのように踵が大変固くおなりだ。これは随分と特殊なスポーツや躾でお体を痛めておいでですね？この爪先だって随分と強引に曲げられた**痕**がついている。染色体みたいなお足をなさっている。捻じ曲げられ、歪められ、それでいてマダムのお足は、全体として充分に美しい。

マヌカン、職人を呼び寄せる。

マヌカン　（職人に）そこのぼんくら、マダムのお足はガレの繊細な硝子細工に触れるように、そーっと、そーっと、扱うのだよ。（マダムに）大丈夫、これはただのアホですが、図ることにかけては才能があるんです。
青虫の長さ、地平線の長さ、爪の長さ、息の長さ、愛の長さなんでも計ってしまう。どんなものにも始まりがあって、終わりがある。
どんなものにも。長いか短いか。

職人、マダムの身体の部分を測り始める。

職　人　3センチメートル、5フィート、7マイル、9光年、
股下、股上、肩幅、袖丈、胸囲、鎖骨、臀部、心臓、運命、地球、人生、
いつか始まりいつか終る。

と、マダムが急に体勢を変え、職人がひっくり返る。

女　いいえ、終わりがないわ。
私の体、右の薬指から左の薬指までつながる私のはだかに終わりはないわ。
胸で山を描いて、おへそでへこんで、茂みを越えて、永遠に続く、終わりのないからだ。私のからだはいびつだけど、まるくて、しろくて、エターナル。

いびつなエターナル、とろけるエターナル、ごつごつするエターナル、
からだはちきゅうのまる、ぎんがのまる、つきのまる、おひさまのまる、
ブラックホールのまる、さいぼうのまる、まる、まるはまる、
どこまでいってもまる、まる、まる……

テーマ曲、遠くから近づいてくる。
舞台奥から女の影のような人々が、立ち現れてくる。
その腕は荒々しく撥ねつけられ、肘と手首はいびつに曲がる。
と、その中に、写真を撮る人物とメモを取る人物がある。
彼は、誰か、何かを探しているよう。
煙のように舞踊手が現れて、その手足が舞う。

02

ワタシ、夢遊病のようにふらふら、ぐるぐる歩いている。
そばでは、三人の人物がストップモーション。

ワタシ　運命、地球、人生……運命、地球、人生、いつか始まり、いつか終わる……いつか始まり、いつか終わる……もし、いつまでも終わらないとしたら、あなたはどうするだろう。のっぺらぼう、つるんとした毎日……つるんとした、のっぺらぼう……同じところをぐるぐるまわる、ぐるぐる、ぐるぐる、まわる、（さして）あの刑事たちの取り調べのように！

と、三人の人物が急に動き始める。
ひとりは、あわただしく、イライラしているようす。
もうひとりは、平然としている。
残りのひとりは、椅子にすわり、愕然としている。

刑　事　捜査だ、捜査だ！早くしろ！
容疑者　……
刑　事　分かったか？
女刑事　ええ　ええ。
刑　事　分かってないだろう。君、覚えておきたまえ、二度繰り返すとたいがい嘘だ。

女刑事　……

刑　事　このぼんくらめ。

女刑事　お言葉ですが。

刑　事　お言葉か？

女刑事　お言葉を返すようですが、警部。

刑　事　ほう。

女刑事　あんなに高速で動いてちゃあ、しょうがない。

刑　事　何が高速だ。ちっとも動いておらんかったぞ。わたしは見ておったんじゃ。

女刑事　いいえ、あれはあまりに高速で動いたため、ちっとも動いてないように見えただけ。このうすらとんかち。

女刑事、さっさと行ってしまう。
容疑者が椅子に座ってじっと果実を見ている。
奥では、トラホームの女詩人が果実をかじっている。

容疑者　（黙って首を振る）

刑　事　お前のやったことは分かってるんだ。

容疑者　……

刑　事　お前がやったことは分かってるんだ！

トラホーム、果実をかじりながら、ゆっくり前へ出てくる。
刑事の前を通り過ぎるとき、かじりかけの果実を渡す。
刑事、それをじっと見つめる。
と、一思いに、果実を潰す。
一撃の打撃音とスクラッチ音と哄笑！

刑　事　人もこうなるんだ　親指が果肉を押して、皮膚を姦通する、赤い皮膚はめくれあがる。爪の中に甘い汁が充満して、ユビはネタネタ、手のひらがネバネバ、肌色の果肉は押しつぶされて、崩れ**落ちた**土塀のように残骸になる。

つぶれた果実の汁が、刑事の手と腕をつたって床に**落**ちる。
トラホームの女詩人、刑事の周りをゆっくりと歩いている。

トラホーム　オヤユビ
オス

メス
カニク
ユビ
ヒフ
オス
メス
ネバネバ
ナル

と、遠くから巨大な何か、飛行機のような轟音が近づいてくる。
それが通り過ぎると、また轟音が近づいてくる。
刑事と容疑者、頭を抱えてうずくまっている。

容疑者　（さして）あの女、あの女なんですよー！あの女を調べてください。
あの女の体を調べてください。

画面の中で女が怯えている。
怯えながら、堕ちてゆく。
目が**見開かれる**。
震えが止**ま**らなくなる。
画面が震えている、地震のようである。
机はガタガタと脚を震わせ、椅子は壁に叩きつけられる。
まるで、絵の具の糸を撒き散らしたような抽象画のようなカオス。

ワタシ　終わらない捜査。犯人の**い**ない事件、事件**の**ない取り調べ。
だから私は怖いんだ、私がこの捜査に意味なんかないと知ることが。
私が私の人生に意味なんかないと知ることが。
私は、崩壊を恐れながら崩壊を待っている、堂々巡りの毎日を生きる。

人は机の下で恐怖に押しひしがれ、壁にしたたかに打ち付けられ、
這い蹲って狂ったように高い所にゆこうとする。
むしろ彼らが暴れ**まわ**り、この騒動を引き起こしているようである。

03

堕ちてゆく女。
ずっとずっと下の方まで堕ちてゆく女。

女　テーブルの上で、世界の最小単位で、レールは敷かれ、電車は走る。
テーブルの上でどれだけ走っても、味噌汁からコロッケぐらいまでしかゆけない。
今日、私は今日、死亡した。
すでに50回ぐらいは死亡しているので、今更痛くも、かゆくもない。
私は手早く葬儀をした。
人生を棺に入れて、焼却する。
また生きよう、また死ねばいいのだから。

女の右影　テーブルの上で、世界の最小単位で、レールは敷かれ、電車は走る。
テーブルの上でどれだけ走っても、味噌汁からコロッケぐらいまでしかゆけない。
今日、私は今日、死亡した。

女の左影　すでに50回ぐらいは死亡しているので、今更痛くも、かゆくもない。
私は手早く葬儀をした。
人生を棺に入れて、焼却する。
また生きよう、また死ねばいいのだから。

ワタシ、あたまを抱えて、気が狂いそうなようす。

ワタシ　毎日が怖い、なにも起こらないのに苦しい。ゆっくり死に向かっている毎日が。
ちゃぶ台というあたりまえの風景をまわりながら、同じはずなのに、
滅びに向かう途中の道を歩いているなんて！

04

ふたたび、刑事たちがやってくる。
ワタシ、それに気づく。

ワタシ　笑おう！なにかあるはずだ。この私に。
真剣に生きていることはこの私に。滑稽だ。
たとえば、こんな捜査を続けている私がおかしくてたまらない。

女刑事、黙ってテレビを見ている。
そのようすを黙ってみていた刑事、突然、叫ぶ。

刑　事　そんなつまらんテレビは消せ。捜査だ！捜査だ！
女刑事　は！（敬礼）

女刑事、テレビを消す。

刑　事　分からんのか。
女刑事　ええ、分かりません。
刑　事　だめなのか？
女刑事　なかなか吐きません。
刑　事　吐かない。
女刑事　ええ。
刑　事　吐かないなら、中身がないんだろ。
女刑事　どういうことですか？
刑　事　中身がないと振ってもでない。
女刑事　なるほど。
刑　事　あの女は空っぽ。だ。

間
ふたりの背後を、女が果実をかじりながら、ゆっくり通り過ぎる。

女刑事　よく分かる説明ですわ……
刑　事　よく分かるといいつつ、なぜ数秒置いたのだ？

女刑事　　すみません。
刑　事　　すみません？何の謝罪だ。
女刑事　　何でしょう。忘れました。
刑　事　　忘れたじゃ、すまんよ。
女刑事　　すみません。
刑　事　　そう、すまんのだよ。
女刑事　　分かっていただいて……

間

刑　事　　分かってないよ。
女刑事　　分かってないの？
刑　事　　分かってないよ。
女刑事　　分かってないの？
刑　事　　そうだ。
女刑事　　どうして？
刑　事　　そういわれても。
女刑事　　困りますよ。
刑　事　　あぁ、そうね。
女刑事　　いや、ほんとに。
刑　事　　いや、すまん。
女刑事　　え、なんですか？
刑　事　　すまん。
女刑事　　すみませんですんだら警察いらないのよ。このすっとこどっこい！
刑　事　　すみませんな。
女刑事　　そう、すまないわよ。
刑　事　　分かっていただいて……

間

女刑事　　分かってないよ。
刑　事　　分かってないの？
女刑事　　分かってない。
刑　事　　分かってないの？

女刑事　　そう。
刑　事　　どうして？
女刑事　　そういわれても。
刑　事　　困るな。
女刑事　　あぁ、そうね。
刑　事　　いや、ほんとに。
女刑事　　いや、すみません。
刑　事　　え、なんですか？
女刑事　　すみません。
刑　事　　すみません？何の謝罪だ！
女刑事　　何でしょう、忘れました。
刑　事　　すみませんですんだら警察いらねぇんだよ。このすっとこどっこい！
女刑事　　すみません。
刑　事　　そう、すまんのだよ。
女刑事　　分かっていただいて……

ワタシ、あらわれて、ゆっくり喋り始める。

ワタシ　　回転……回転……（はっとして）回転寿司！そう、**かつての**回転寿司！
ある日、私は、気づいた、心の中の問答は同じところをぐるぐる回転して、
時間をつぶしているだけなのだと。
ぐるぐる、ぐるぐる、ぐるぐる、ぐるぐる、回転しているだけ。
永久に手に**することのない**回転寿司**の**皿のように。
ぐるぐる、まわるうちに、静かに乾いていく……

女、果実をかじりながら奥から前へ。

刑　事　　分からんな。
女刑事　　ええ、分かりません。
刑　事　　だめなのか？
女刑事　　なかなか吐きません。
刑　事　　吐かない？
女刑事　　ええ。
刑　事　　吐かないなら、中身がないんだろ。

女刑事　　どういうことですか？
刑　事　　中身がないと振ってもでない。
女刑事　　なるほど。
刑　事　　あの女は空っぽだ。

女、容疑者のそばを通り過ぎる。

容疑者　　俺は見たんだ。あの女がでかくなったり、小さくなったり。
女刑事　　本当なの？
容疑者　　本当だとも、でかくなったら天井に頭をぶつけてた、ちいさくなったら糸くずみたいになってた。

刑事、二人は顔を見合わせる。

刑　事　　嘘つけ、このぼんくら、この世界は不思議の国のアリスでも、隣の国のキリギリスでもないんだぞ。地中海の鰯に食わしてやる。
容疑者　　や、やめてください。
刑　事　　22世紀まで沈没してやがれ
容疑者　　分かりました。言います、あ、あの女はせ、せせせ
女刑事　　せがみやっきょく、でしょうか？
刑　事　　……、あの女がせがみやっきょく、だとしたら、お前はなんだ？すぎやっきょくか？　あ？　お前も消えろ
容疑者　　せ、世界の、**SEKAI NO OWARI**なんです。
刑　事　　じゃじゃーーん。ここでクラッシュシンバル！なわけないだろう！
あの女からは何も怪しいもの**が**出なかった。何もな。空っぽだ。この画面を見てみろ。これはあの女の体内に仕掛けられた監視カメラだ。

刑事、女刑事にモニター画面のようなものを見せる。
そこへワタシ、ゆっくりとあらわれる。

ワタシ　　意味を見つけたい。こうして喋っていることに、怒っていることに。
苦しんでいることに。孤独であることに……
何か名前をつけたい。だから私は調べている。探している。
違うはずだ、もっと違うもののはずだ、この私は……

モニター画面をのぞいていた容疑者**が**突然、驚く。

容疑者　　え？

刑　事　　監視カメラがないと、最近じゃあ誰もとりあっちゃくれない。だから人間の体にも監視カメラをつけることにしてるんだ。

容疑者**は**モニター画面をのぞいてみる。

容疑者　　見え透いた嘘をつくなよ。何にも映っちゃいないぞ。
そんなの無理だ、監視カメラが植え付けられてるわけじゃない。
お前らが植えつけようとしてるのは、監視されてるって意識だ！

容疑者**は**モニター画面を投げ捨てる。
女刑事、間一髪、それを拾う。
興味深そうにのぞいている女刑事。

刑　事　　難しいこと言うな！

容疑者　　俺じゃない。あの女だ！

刑　事　　俺でもないぞ。さぁ、はやく吐け。今日はやく帰ってヨメといちゃいちゃする約束をしたんだ。カニクリームコロッケ作ってくれるって言ってたんだぞ。
どうだ、テーブルにカニクリームコロッケだぞ。
これに勝るしあわせつーやつがどこにある。

ふたたび、飛行機が轟音で飛んでくる。

刑　事　　伏せろ。

また画面が、世界が震えている。
地震のようである。
人々はしたたかに打ち付けられ、逃げ惑う
人は怒っている。
むしろ彼らが暴れ**まわり**、この騒動を引き起こしているようである。
と、女刑事、モニターを刑事に見せる。

女刑事　　映りました！あの女です！

モニターの中で、女とその影が動いて**い**る。

女刑事　　寝転んでます。食卓に行きました。なにやら通信してます。
寝転んでます。食卓に行きました。なにやら通信してます。
寝転んでます。食卓に行きました。なにやら通信してます。
寝転んでます。食卓に行きました。なにやら通信してます。

ワタシ、女に寄り添うように現れる。

ワタシ　　しあわせってなんだろ。世界では戦争が起こっているというのに。
疫病が蔓延しているというのに。
私ときたら…なぜ変わらないのだろう……
何もないくせに苦しくて、
中身のないどこから、涙を流しているのだろう……
私を見つけて！ハッシュタグ、私の終わり……

と、容疑者、狂ったかのように暴れる。

容疑者　　うわあああああああ……

トラホームの女詩人、果実をかじりながら登場。
トラホーム、容疑者に近づくと、果実を渡す。

容疑者　　分かってるんだ。人もこうなるんだ。
親指が果肉を押して、皮膚を姦通する、赤い皮膚はめくれあがる。
爪の中に甘い汁が充満して、ユビはネタネタ、手のひらがネバネバ、
肌色の果肉は押しつぶされて、崩れ**落ち**た土塀のように残骸になる。

容疑者、果実を押し潰す。
果実の汁が、容疑者の手と腕をつたって床に**落ちる**。
それをじっと見ているワタシ。

ワタシ　　いつかは死ぬんだ**と**、意味のないことを繰り返していたら……

いつかは終わりが……あるのだろうか……
でも、ゴールは長すぎて終わりが見えないなら、
それは終わらないのと同じだ。

05

堕ちてゆく女　ずっとずっと下の方まで堕ちてゆく女。
ワタシ、それを見ている。

ワタシ　いきたくない、行きたくない、生きたくない、逝きたくない……。
本当は学校へ行きたくない、仕事にも、遊びにも行きたくない、何もしたくない。
夜、じっと目をつぶって、そのままずっと目を開くことがなかったら…いいのに。
そんなことを考えてしまう、私は自分の情けなくも、みじめな姿に涙する。

堕ちてゆく女が喋り始める。

女　テーブルの上で、世界の最小単位で、レールは敷かれ、電車は走る。
テーブルの上でどれだけ走っても、味噌汁からコロッケぐらいまでしかゆけない。
今日、私は今日、死亡した。
すでに50回ぐらいは死亡しているので、今更痛くも、かゆくもない。
私は手早く葬儀をした。人生を棺に入れて、焼却する。
また生きよう、また死ねばいいのだから。
女の右影　テーブルの上で、世界の最小単位で、レールは敷かれ、電車は走る。
テーブルの上でどれだけ走っても、味噌汁からコロッケぐらいまでしかゆけない。
今日、私は今日、死亡した。
女の左影　すでに50回ぐらいは死亡しているので、今更痛くも、かゆくもない。
私は手早く葬儀をした。
人生を棺に入れて、焼却する。
また生きよう、また死ねばいいのだから。

画面がノイズになる。

06

刑事と容疑者、女とその影を見つける。
刑事が証拠写真を撮ろうとすると、なんと、女とその影はポーズをとる。
と、女とその影、急に倒れてしまう。
なんでも測る職人が出てきて、女とその影の身体をチョークで型どる。
別のところにも女の影が立ち現れる。
刑事と容疑者、あわてて証拠写真を撮る。
写真を撮られている女の別の影、嬉しそうにポーズを決める。
撮影する刑事も盛り上がる。
と、また女の別の影、急に倒れてしまう。
職人が出てきて、女の別の影をチョークで型どる。
と、トラホームの女詩人が、果実をかじりながら登場。
女にかじりかけの果実を渡す。

トラホーム　しあわせですか　しあわせですか。
あんた今　何よりそれが　何より　ツミ。

女とその影、どうやらどこかへ向かうよう。
刑事と容疑者、尾行する。
女とその影、電車に乗る。
刑事と容疑者も乗る。
女とその影、ふいに果実を取り出し、かじる。
刑事、写真を撮り、容疑者、メモを取る。
女とその影、電車を降りて、事務所らしきところへ。
そこで、キーボードを叩き始める。
だんだんキーボードが、腐った果実のように柔らかくなる。
女とその影、腐った果実を投げつける。
その方向は、観客席。

07

客席から声。
ワタシ、喋りながら、客席から登場。

ワタシ　私は多分しあわせなのだ……私は多分しあわせなのだ。
テーブルにクリームコロッケが乗っている、クリームコロッケが乗っている
これに名前をつけるならしあわせなのだ、
世界では今でも、戦争が起こっているのだから。
それでも今日**は、**テーブルにクリームコロッケが**の**っている。
だけど、しあわせというのはどうしてこうも、
死んでいるかのような感覚なのだろう……死んだこともないけれど……
とにかくしあわせは怖い……
テーブルに乗ったものは知らない間に色褪せ、乾いてる。
それに気づかないふりをしたり、見過ごしたりできるのか…

朝ごはんを用意している妻。
iPadで新聞記事らしきものを見ている夫。
その周りにも、同じような光景。
全国的に食卓が準備されている。
刑事と容疑者が、その光景を捜査している。

夫　と、夫らしく威厳のある声で咳をする。オッホン！
妻　と、妻、いそいそと料理を運び、ソワソワと食卓の準備をする。

夫、箸で漬物をとって、食べようとする。

夫　つけもんが……しなびてる。
妻　それはしなびてるもんよ。もともとね。
夫　もともと？
妻　もともと。
夫　そうか……もともと？
妻　もともと。
夫　そうか……そうか？

妻　　いちいちね。
夫　　いちいちなんだよ
妻　　なんでもない。
夫　　なんだよ。
妻　　いちいちね。

夫と妻の周辺では、日常の食卓がなにごともなく進んでいる。

夫　　つけもんがしなびてるって言っただけだろが……
しなびてるもんをしなびてるって何がわりいんだよ。
あぁ、昔はさ、炊き立てのご飯の横に、湯気が上がるカニクリームコロッケが
のってたもんだよ。グリーンサラダが隣にいてさ、その上にはゆで卵のスライス
した奴がのってた。デザートには果実のむいたのなんかが出てきたっけ。
箸を入れたらサクって衣が割れてさ、なかから生まれたての白いもんが
溢れてくるんだ。
妻　　割れた瞬間に終わっちゃったのよ。
夫　　割らなきゃ食えないだろ。
妻　　食わなかったクリームコロッケは永遠よ、だけど食べちゃったクリームコロッケ
は一回限りなの。人生と同じ。
夫　　クリームコロッケの幸せは永劫回帰しない……

夫と妻、グルグル渦を巻くように収束される。
刑事と容疑者もその渦に巻き込まれてしまう。

ワタシ　　疑問を挟むな……目を閉じよ！耳をふさげ……
しあわせなちゃぶ台の上で、なんとか明日を永劫回帰するのだ！

08

容疑者、メモを取っている。
取調べ室で刑事が容疑者に向かい合っている。

刑　事　　なんだって？
容疑者　　いえ……
刑　事　　なんだって？
容疑者　　何も言ってません。
刑　事　　なんだってお前が調書をとってんだ！　それは俺の役割だ、貸せ！

いつのまにかワタシが、刑事と容疑者に寄り添っている。

ワタシ　　終わらない捜査。犯人の**い**ない事件、事件のない取り調べ。
だから私は怖いんだ、私がこの捜査に意味なんかないと知ることが。
今日も捜査がはじまる。私という刑事が私という容疑者に尋ねる。
いや、私という容疑者が私という刑事に尋ねる。

刑事、何か書こうとして何も書くことがないことに気づく。

容疑者　　……
刑　事　　何か言ってくれ。なんでもいい。
田舎のばあさん家に漂う懐かしい**縁側の**匂いの話でもいい、
マイアミビーチに建つ最新リゾートホテルに転がるビジネスチャンスでもいい、
時空移動に関する国際的**な**研究の話でもいい。
容疑者　　刑事さんは、静かなのはお嫌いですか？
刑　事　　何かインプットしたい。何か入れたいんだ。どうも何も入っていない気がする。
容疑者　　……
刑　事　　はやくしろ！
容疑者　　じゃあ、私の沈黙は厭なわけだ。私の沈黙はあなたへの罰に値するわけだ。
刑　事　　……
容疑者　　……

カメラの中、女と女刑事が何かをかき分け、通り過ぎてゆく。

刑　事　　見たか？

容疑者　　見ました……

あの女の体内カメラに女刑事さんが映ってる！って刑事さん！刑事さん！

刑事　黙ったまま虚空を見て**い**る。

刑　事　　俺はもうダメだ。これをやる。

刑事、何かを渡す。

ワタシ　　私は私を入れ替える、刑事と容疑者、

追究する私と追究される私の役割を入れ替える。

一瞬、自由になれたように思う。でも、知ってるんだ、私は変わらない。

どこまでいっても丸は丸なのだ！

容疑者、受け取る。

容疑者　　え、この手帳は？

刑　事　　お前**が代わり**に捜査しろ！世の中にはいつも役割の巡り**合**わせがやってくる。

今がその時だ。お前は今、容疑者から刑事に代わる。

容疑者　　え？　わけわかんないけど、劇空間って結構いいもんだな。

外に出ても劇空間だったらいいのに。

09

テーブルの上の世界はどんどん巨大化する。

ワタシ　どこまでいっても丸は丸、どこまでいっても丸は丸！
それならば、私は小さくなって、私の中に入ってみる。
ちゃぶ台の端ばかり見ているから、おかしなことになっちゃうんだ。
大きく見ることができないなら、小さく見ればいい。
小さくなって、私の中から私を見ればいい。

女刑事、女について歩いてゆく。
背後にはたくさんの影たち。
どうやらテーブルの上を散歩しているらしい。

女刑事　どこまでいくのよ？
女　どこまでも。

女刑事、何かに刺さる。

女刑事　痛い。何、このでっかい黄色いサクサクは？
女　衣よ。
女刑事　なんなのこの緑いっぱいのジャングル、うわっ、滑る。
女　サラダ、ドレッシング付き。
女刑事　なんなのこの丸くて白い岩。
女　たまご！
女刑事　あ、果実！おかしいわ。私、渋谷駅から電車に乗って、
井の頭線で家まで帰るつもりだったのよ。
何時の間に、テーブルの間を走ってるの？
女　ねぇ……そろそろ仕上がったかしら？
女刑事　え？

いつのまにか、女にその影がぴったりと寄り添っている。

女　靴よ。私の足にぴったりの靴を作ってもらえるって、約束してるのよ。

女刑事　　え？　あ、そう言えば、この劇の冒頭でそんなシーンがあったような……
でも、お客さんだってそんな冒頭シーン、もう忘れてるはずよ。
三歩、歩いたら忘れるの。
お客さんなんか一歩も歩いてないけど、すっかり忘れてるわ。

と、マヌカンと職人が突然、登場。

マヌカン　　大丈夫、これはただのアホですが、図ることにかけては才能があるんです。
青虫の長さ、地平線の長さ、爪の長さ、息の長さ、愛の長さ……
なんでも図ってしまう。
女刑事　　あれあれ……冒頭の台詞を喋ってる……あれ？
……そうか台本に書かれてあるのか……、ややこしいな。
マヌカン　　どんなものにも始まりがあって、終わりがある。どんなものにも。長いか短いか。
職　人　　3センチメートル、5フィート、7マイル、9光年、
股下、股上、肩幅、袖丈、胸囲、鎖骨、臀部、心臓、運命、地球、人生、
いつか始まりいつか終る。
女刑事　　あら、どうしよう。冒頭シーンに戻ったら、劇が前に進まないから、このまま劇場から一歩も出られなくなる。第一私は刑事なのよ。だいたい、マヌカンが再登場するなんておかしいわ。お客さんだってそろそろお腹が空いてきたのよ。
女　　いいえ、終わりがないわ。

叩きつけるようにテーマ曲。
女とその影たち、宙から果実をむしり取り、潰し始める。

ワタシ　　私は、どうも、狂ってる。
どうしてこんなに無駄なことばかり、口から出すんだろう。
同じ間違いと、同じバカらしさと、同じ孤独ばかり繰り返すんだろう。
ああ、誰か地球を止めて！ますます目がまわる。

巨大化した女とその影たち。

女刑事　　やめてちょうだい！
女　　私の体、右の薬指から左の薬指までつながる私のはだかに終わりはないわ。
胸で山を描いて、おへそでへこんで、茂みを越えて、永遠続く、終わりのない

からだ。私のからだはいびつだけど、まるくて、しろくて、エターナル。

女刑事　やめてったら！

女の右影　いびつなエターナル、とろけるエターナル、ごつごつするエターナル、
からだはちきゅうのまる、ぎんがのまる、つきのまる、おひさまのまる、
ブラックホールのまる、さいぼうのまる、まる、まるはまる、
どこまでいってもまるまるまる……

女の左影　テーブルは小さいけれど、丸く走ればエターナル。

女、何か薬を飲もうとしている。

女刑事　やめなさい！

女、少しずつ身体が伸びて大きくなる。

容疑者　うわあああああ、おおきくなった！おおきくなったぞ！

女は下界を見ながら

女　ちいさくなる、ちいさくなる、ちいさくなるわ。

女、どんどん身体が大きくなる。
刑事、それを見上げて、警告する。

刑　事　だまされちゃだめだ、あれは影だぞ。

容疑者　うるさい、今は俺が刑事だぞ！

刑　事　犯人を捕まえろ。でないとお前が犯人だ！

刑事と容疑者は、お互いにあわてふためいている。
そこにトラホームの女詩人が登場。

トラホーム　しあわせですか　しあわせですか
あんた今　何よりそれが　何より　ツミ

巨大化した女とその影、刑事たちを見下ろしている。
大きくなった女、小さくなった世界を見つめる。

女とその影、また何かを飲む。
と、女とその影、どんどん小さくなる。
テーブルは普通の大きさになる。

ワタシ　あなたは違うの、そんな顔しないで。
ごくごく一般人の孤独を見せられて、イライラしている。
どうしてまともな台詞が言えないのか。
「お前の支離滅裂のマルを**観察**するために、俺は生きてるんじゃないぞ！」って。
だけど、どうして、そんなこと言うの？
あなただって、あなただって、あなただってずいぶん丸いじゃないの……

10

静かな空間。

ワタシ　私は私に読み聞かせる。「完全自殺マニュアル」。
そして目を閉じて一度**、まぶた**の中で私がしっかり死んだら、
私はまた明日を生きられる。
私は想像力の中で死にたい、毎日毎日、生きるために。
かろうじて、目を開くために！
明日、生きるために、今日、想像力の中で死ぬ。

書籍「完全自殺マニュアル」を読む自殺志願**者**

自殺志願　ガソリン・灯油はかぶって火をつけてもいいけれども、飲めばより少量で苦痛も少なく死ねる。どちらも飲むと粘膜を刺激し……中毒症状も激しくなく、自殺には最適だ。

ワタシ**は**、悶絶する。

ワタシ　誰か教えて！なぜこうなってるのか。なぜ、私はこうなのか！
なぜ、もっとうまくやれないのか。なぜ、じわじわと首が締まっているのか？

11

刑事と女刑事、容疑者に詰問している。

容疑者　（果実を齧る）
刑　事　お前がやったことは分かってるんだ。
容疑者　……（果実を齧る）
刑　事　お前のやったことは分かってるんだ。
容疑者　……（果実を齧る）
刑　事　お前がやったことは分かってるんだ。
容疑者　……（果実を齧る）

周りから、せせら笑い。

刑　事　お前のやったことは分かってるんだ。
容疑者　……（果実を齧る）
刑　事　お前がやったことは分かってるんだ。
容疑者　……（果実を齧る）

哄笑！
突然、響く大音響！
突然苦しみ出す犯人。
家具ががたがた震えだす。
人が溢れてくる。
その手には、果実。
果実をかじる人々。
刑事と女刑事、容疑者は犯人を捜し続けている。
突然、人々が流される。
流される人の中から、刑事が一人を指差す。

刑　事　今だ！その女を捕まえろ！！

女刑事・刑事・容疑者は女を捕まえる。

容疑者　　それは影だ。そんなに大きくないぞ！

女刑事・刑事・容疑者は女を再び捕まえる。

容疑者　　あ（手には果実）
刑　事　　畜生、一杯食わされた。
女刑事　　これじゃないでしょうか？
刑　事　　違うだろ？
女刑事　　これでないという証拠は何もない。だったらこれであるかもしれません。
女　　きっとこれよ、間違いないわ。
刑　事　　違うだろ？

人々は、どこかに流されてしまう。
困惑する刑事たち。ぶりを尻目に、女とその影は食事をとり始める。
それを尻目に、女とその影は食事をとり始める。
優雅な食事風景。
刑事たちの捜査は続いている。
と、女たちの食べる速度がはやくなってくる。
荒々しく食べ散らかしている様子。
だんだん獰猛な犬になっていく女たち。
そこに自殺志願者が、果実をかじりながら登場。
女と影たち、野犬のように自殺志願者をつけまとう。
自殺志願者に食べ残した果実を投げ与えると、女とその影、それに群がる。
しかし次の瞬間、ふと我にかえり、上品に身だしなみを整える。
ふたたび、自殺志願者、食べ残した果実を投げ与える。
女とその影は、獰猛な犬のようにそれに群がる。
そしてまた、ふと我にかえり、上品に身だしなみを整える。
最後に、女とその影は自殺志願者を写真に収める。

12

舞台上には、人物がストップモーション。
その人物は、写真家と雑誌編集者。
女とその影たちが撮った自殺志願者の写真を見ている。

写真家　といった感じの写真を撮ろうと思ってるんです。
編集者　えっ？

編集者は眠っていたらしい。

写真家　あの……っといった感じの。
編集者　あぁ、コロンブスになって、それからたまごになって、
フライパンでじゅうじゅう焼かれるって話なのね。
写真家　違います。
編集者　え、違うの？
写真家　ええ。
編集者　でも同じでしょ？あなたの言ったことをアブストラクトに表現すると
同じってことでしょ
写真家　え？アブ……アブ**のスト**？
編集者　違うの？
写真家　ええ？まぁ、そうですね。本質的には同じ事を言ってるのでしょうか？
編集者　ですよね。あなたの言いたいのはそういうことよね。見せて。
写真家　え
編集者　写真をこっちによこしてよ。

写真を見て編集者**は**しきりに頷く。
遠くの方からワタシの声。

ワタシ　ある日、私は、はっちゃけたい！ぶっ飛びたい！と叫んだ。
多分、私は全然、違う人生だ！きっと全然違う私だ！
今は全部、全部、嘘なんだ。今の私は、全部、嘘なんだ。
新大陸がある、きっとどこかに新大陸があるはず……新大陸があるはず……

ワタシの声、遠ざかる

編集者　ああ。そういうことなのよ、あなた。要は、じゅうじゅう焼かれる、
その焼かれるモノはただのたまごじゃなくて、新大陸発見！ってことを
彷彿させるタマゴ、ということですよね。ヒストリー、ヒステリー、
大海原がどんぶらこ、一寸ボウシ、未開の知、インディオ、ヨーロッパ、フー。
そういうことなのよ。そしてタマゴの割れた黄身があなた自身とかかっている。

写真家　え？ええ？

編集者　きみときみ。

写真家　おやじギャグ？

編集者　え？

写真家　いえ、どう考えましても、コテコテの……

編集者　コテコテの何、お好み焼きのコテコテの、何等分の話なのよ？

写真家　え……なんの話と言いますか。

編集者　タマゴでしょ……

写真家　はあ？

編集者　もっと言うと、その破壊衝動なのよ。タマゴを割るという、その破壊衝動？

写真家　タマゴを割るって破壊衝動だったの……ちょっとおおげさと言うか。

編集者　もちろん。タマゴは割られるためにある。
例えば、世界は壊れるためにあるでしょう。

写真家　え……そうですか。そうかな。ええ？

編集家　そのために生み出される。いつもタマゴは誕生と破壊を内包する装置なの。
タマゴを見てみて、丸いでしょう。あれは何を想像しますか？

写真家　ええと……まるいもの…まるいもの。月。団子。

写真家、しきりに考える。
編集者、満足そうに頷く。
と、ワタシが口をはさむ。

ワタシ　戻らないで、戻らないで、話を戻さないで！
「殻を破りなさい」って先生が言ってた。
「鳥は生まれるとき、殻を破る」って！
話の端と端を、クルッと回して、結び付けたら、
物語がメビウスの輪のようにつながる、つながってしまう。

なかなか答え**られない**写真家。
すっかり**苛立つ**編集者。

写真家　まるいもの…まるいもの。月。団子。
編集者　違います！
写真家　え？何を想像するかはわたしの自由では？
編集者　ダメ。全然ダメ。あなたは全く分かってないわ。0点！
写真家　て、点数制？
編集者　0という形を見てみて。何と似ている？
写真家　え、えーと……
編集者　たまごですよ。
写真家　あ！
編集者　ふふふふふ。
写真家　分かりませんでした……
編集者　ゼロ点は盲点というわけよ！
写真家　盲点……なるほど……

舞台奥に刑事と女刑事が現れる。

写真家　（刑事も声を合わせ）すみません。
編集者　（女刑事と声を合わせて）なぜあなたがあやまるの。
写真家　あれ……なんで私、あやまってるのかしら。
（刑事も声を合わせ）すみません。理由なくあやまってすみません。
編集者　（女刑事と声を合わせて）すみませんじゃ、すまないわよ。
写真家　あれ、これどっかで聞いた台詞よね。
編集者　ふふふふふふ……

舞台奥から、女とその影たち、笑いながら登場。
写真に撮られる編集者と写真家。

写真家　ああ……そうかこれが私の写真だわ！

遠くからテーマ曲が近づいてくる。

13

マヌカンと職人が現れて、劇の始まりを演じている。
もはや、日常だけではなく、演劇もループと化した。

マヌカン　青虫の長さ、地平線の長さ、爪の長さ、息の長さ、愛の長さ。
始まりがあって、終わりがある。

職　人　3センチメートル、5フィート、7マイル、9光年、
股下、股上、肩幅、袖丈、胸囲、鎖骨、臀部、心臓、運命、地球、人生、
いつか始まりいつか終る。

次々と舞台に溢れかえる人々。
その腕は荒々しく撥ねつけられ、肘と手首はいびつに曲がる。

女刑事　警部！終わりがありません！
右の薬指から左の薬指までつながってまんまるです……
たまごのように……テーブルのように……ゼロの形に。

刑　事　つぶしてしまえ！

人々、宙から果実をむしり取り、潰す。
と、潰した果実を握りしめたワタシがあらわれる。

ワタシ　ああ…この全貌が私だ、私は分かった！
私は、救われない。決して救われない存在だ。
生まれて死ぬまで、ずっと私だ！
誰か～！助けて！
目を開けたら、どうしていつもと同じあさが来るの…
誰か～！教えて！
どうして目を開けたら、同じ私が続いてしまうの…

人々の中から、潰した果実を握りしめた女の影があらわれる。

女の左影　その時、私に救いがやってきた。
私は待っていたんだ。このループが解かれる時を。

まるい私の体が解かれ一直線上になって終わりがちゃんと見える時を。

女の右影　私はもういやだ。まるいのはイヤ。
だから待っていた終わりを、毎日、毎日。
私が死ぬ時を、私は何度だって死にたいんだ。

人々の手と足が舞う。
両手の薬指がつながり、身体がループを描いている。
やがて、さらに多くの人々が現れる。
彼ら、彼女らは何かを探しているよう。

女たち　おーい、あなたぁ、あなたぁ
男たち　ここです　ここですよ
女たち　あなたぁ、あなたぁ
男たち　ここです、ここですよ

だが、あたりは静まり返り、人々は倒れ、返事はない。

女　あなたぁ、あなたぁ、いっぱいいすぎて分からないの。
終ろう、終ろうよ。
あたしもこうなるの。
親指が果肉を押して、
皮膚を**貫通**して、
赤い皮膚がめくれあがる、
爪の中に甘い汁が充満して、
指がネタネタになって、
手のひらがネバネバする。
肌色の果肉は押しつぶされて、
崩れ**落ち**た土塀のように残骸になる。

人々**は**舞台でループを描きながら舞う。

ワタシ　つながって、ちゃぶ台の端を崩して、指先をつないで……
そう、あなた……そこのあなた……目を閉じて開いても、
同じあなたである現実を……あなた～、あなた～

女とその影が、ふいに客席に向ってシャッターを切った。
何かが壊れ、砕け散る音。
やがて人々は、ゆっくりと何かを飲む所作。
そして、一気に飲む。
スローモーションで崩れていく人々。

劇　終

※参考資料『完全自殺マニュアル』鶴見 済（太田出版）